

END



念のためお断りしておく、ここにはいかなる善悪の価値判断もありません。「終わり」からさかのぼってその人の発信や行動や周囲の声を集めてみると、このようなあり方の延長にこういう結

今

年は「終わり」を考えさせられる出来事が多かったように思います。

国や業界のトップに立ってきただけで日々人生の終わりを迎えました。何日間もかけて、生前の功績を世界中から称賛されながら最上位の儀礼で哀悼される方、賛否両論のなか中途半端なくすぶりが残る儀礼とともに送られる方、自分の命など勝手にしやがれとばかりに自身で強制終了してしまう方、みごとなまでに多様でした。

また、企業のトップが突然、辞任するという事態も続きました。既婚男性との交際による妊娠で辞任、交通事故後に相手に責任転嫁して何喝する動画拡散を受けての辞任など。

ひとつひとつの「終わり方、終え方」をしみじみ観察して思うのはやはり、いかなる形であれ「終わり」にはその人が日頃積み重ねてきたものが集約されて表れるものなのだなあということ。

果が薄かれてくるのか……という一貫性みたいなものが見えてくる、ということ。」「終わり」によってその人の

人生の意味とか、その人の輪郭のようなものが立ち現れてくる、と言い換えてもいいかもしれません。終わりを意識することで初めて自分の人生を生きられると先人たちが語り継ぐのは、まさにそついつつとなのでしようね。

さて、食事の終わり、デートの終わり、一日の終わりを重要なものとして演出することをオススメするのは、その逆の発想からです。途中どんなハッピーングがあろうとも、終わりを美しく充実させることで、一連の食事やデートが、さらに言えば日々の生活が、希望とともに次へとつながっていきやすくなります。終わりは常に次への始まりであることに「目覚めなさい」。あ、古今の文学者が描くところによると、「情事の終わり」と「栄華の終わり」だけは、だいたい「あつけない」ものの上です。

終わりを  
考える

# 04 Lifestyle

男たちよ  
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

カトリーヌ10世  
Catherine X

### PROFILE

グローバル化が進む  
社交界事情にも通じる。  
密かな趣味は  
人間観察とコスプレ。  
好きな飲み物は  
モンラッシェ。  
日本ではほとんど  
知られていない、  
ある小国の女王  
とのウワサも!?